

2014水生生態系復元に関する国際シンポジウム参加報告(in 韓国)

リバーフロント研究所 主席研究員 塩井 直彦

1. はじめに

平成 26 年 5 月に韓国（ヨンイン）で開催された「2014 水生生態系復元に関する国際シンポジウム」に参加するとともに「日本の河川環境改善に関する動向」と題して発表を行いましたので、概要について報告します。

なお、本シンポジウムへの参加については、以前より当研究所と交流のある韓国水生生態系事業団（CAER）の依頼を受けて対応したものです。

2. シンポジウムの概要

目的：韓国において、水生生態系復元を推進するために、海外（ヨーロッパ、中国、日本）の動向及び韓国国内の水生生態系復元の政策の方向性や先進技術について情報交換を図る。

日時：平成 26 年 5 月 14 日(水)～15 日(木)

場所：Halla ヒューマン・リソース・ディベロップ・センター

主催：韓国環境部、韓国環境工業技術研究所、CAER

後援：韓国環境協会、韓国陸水協会、韓国水生生態協会

事務局：Halla Co., 江原大学

参加者：約 200 名（民間企業、地方行政機関など）

韓国では、「生態河川づくりの 10 年計画」が 2006 年から大規模に実施されおり、シンポジウムの実施主体である水生生態系復元事業団も、この実施のために設立された機関です。

本シンポジウムは、今後の韓国の生態系復元のさらなる展開を図るために開催されたものです。

シンポジウムは全体で大きく第 1 部のオープニングセレモニー、第 2 部の国際セッション、第 3 部の国内セッションに分かれ構成されていました。

第 1 部では、CAER の Byungho Yoo 事業団長より開会の辞の後、Halla Co. の Gilson Hwang 部長、韓国環境工業技術研究所の Jung Dongil 環境技術部長及び韓国陸水協会の Bomchul Kim 会長より祝辞がありました。

第 2 部の国際セッションでは、中国、日本、イギリスから取り組み状況について発表がありました。

① 河川の生態系復元及び水質改善（中国環境

科学研究院 Shaoyong Lu 研究員)

② 日本の河川環境改善に関する動向（リバーフロント研究所 塩井直彦)

③ イギリス及びヨーロッパの河川再生とマネジメント（河川再生センター Martin Janes センター長)

塩井からは、日本の河川環境施策に関する変遷と自然再生事業などの具体的な取組事例について説明を行いました。なお、イギリスの Martin Janes 氏は、2007 年に日本で開催された ARRN の国際フォーラムに参加していただいた方です。



登壇時の写真（左から 2 人目が塩井）



発表の様子（日英韓の交互通訳）

午後の第 3 部では、韓国国内の環境施策の取組について発表が行われ、韓国の河川環境施策、河川環境再生のエコロジカルガイドライン、ダム湖のハビタット復元、バイオトープ再生とハビタットモデル、生態価値の創造に関する先進事例について報告がありました。

3. おわりに

今後も関係国間で、河川の自然再生について幅広く技術交流が行われることを期待します。なお、今回のシンポジウムへの参加にあたっては、CAER の Chulgoo Kim, Hyugjun Lee, 及び Hey-ji Choi さんなどにご協力いただき、感謝申し上げます。